

両手を広げて、くるりと回る。私の円の半径は八十一センチ。どうして私は、たった「八十一センチ」を平和に保つことができないのだろうか。

日本という国自体が戦争を放棄していても、私達の日常は戦争だらけだ。自分が得をするために他人を貶め、すぐに差別をしようとする。現に私も、保身のために無関係な人間を傷つけてしまうことが多々ある。最も恐ろしいのは、私たちがこの現状に慣れてしまっているということだ。自分の周囲の平和すらも、自らの手で壊してしまう私達が、この先ずっと、他国と争わないという選択をし続けることができるとは、到底思えない。少なくとも現在、私達がとっている日々の行動は、平和を望む者の姿勢とは、全くかけ離れたものであるはずだ。

今、隣にいる人の目を見てみて欲しい。できれば手をとって。そして、その人が自分にとってどんな相手であろうと、その人の全てを「許す」ということをして欲しい。競争社会の中で、私達は「許す」という行為にひどく怯えを感じているような気がする。まるで、許し合わないことが社会の厳しさであり、それが正常な状態であると、正当化されているようにも思える。しかし、国同士の争いも、過去の歴史上の誤りや、相手国の正義を許し合えないことが原因であるのだから、これがどんなに勇気のいる行為だったとしても、正当化したまま、放っておくわけにはいかないのだ。

## 真の平和主義者になるために

京都文教高等学校3年

山本芽依

まずは一人、目の前の相手と向き合い、マイナスイメージを昇華させ、憎しみの生まれない関係を築くことを意識すべきだ。漠然と国の平和を祈る前に、私達は日常の戦争を無くしていかなくてはならない。「ごめん」と言われれば素直に許し、罪の意識に苛まれる人間をつくらない。苦しい顔を見つけたら、誰彼構わず手を差しのべる。そんな人間を許さない人間はそうそういないだろう。人を許すことは、自身が許される人間になることにつながるのだ。

戦争のない国で、私達は日々、孤独に戦っている。時として、私達は言葉の刃で人を傷つけ、厳しい社会のシステムによって人を殺めることもある。絶え間なく流れる不幸なニュースに、私達はもう、驚かなくなった。

本当に、この国の平和維持、さらには世界平和を望むのであれば、第一に手を繋ぐことのできる距離にいる人間と共に、平和な環境を作り出し、それを維持し続ける努力をしなければならぬ。自分の行く先々で常に平和な円を作れるようになれば、平和の予兆は確実に広がっていく。

尊い命の集合体であるこの地球に、もう二度と黒い雨を降らせないために、誰一人涙を流すことのない幸福で満ち溢れた社会の実現へと、私達は進んでいきたい。